

“造波抵抗の極小値と影響係数”

別紙正和

容積分布の造波抵抗は (速度を 1 とし)

$$R = \frac{4\rho}{\pi} k_0^4 \int_0^{\pi} \{E_r^2 + E_i^2\} \sec^2 \theta d\theta, \quad (1)$$

$$E_r + iE_i = \frac{1}{2} \iiint_V e^{k_0 z \sec^2 \theta + i k_0 x \sec^2 \theta} d\tau, \quad \omega = x \cos \theta + y \sin \theta, \quad (2)$$

巾が狭いとすると体積要素 $d\tau$ は η を半巾として

$$d\tau = 2\eta(x, z) dx dz, \quad (3)$$

この式から 是が 極小 抵抗を与える 船型は

A) 前後対称である事

B) 水面下に沈む程 抵抗は一般に小さくなる。従つて吃水及び 水面下の形に於て何等かの条件を与えておかないと 極小問題の解は 没水係にならざるを得ない。従つて問題を簡單にする為には 此處では 垂直船型の船を考へる事にする。

C) (2), (3) 式は 亦 / 近似的なものであつたが、此れを (x, z) 面における 2 方向 向き の 2 重 積分 1 分布 と見れば、(1) 式は 正確な表現であるから、遂に 此の 2 重 積分 1 分布 に対する 船型を 計算 する 事 を 考へ ら れ る。

さて (1) 式に (2), (3) を代入して θ について 先づ 積分 すれば

$$R = \frac{4\rho}{\pi} k_0^4 \iint_S \eta(x, z) dx dz \iint_S \eta(x', z') dx' dz' P_{-1/2}(k_0 x - x', -k_0 z + z'), \quad (4)$$

垂直船型、吃水 T (船長 Q) とすれば

$$R = \frac{4\rho}{\pi} k_0^2 \int_{-\frac{1}{2}}^{\frac{1}{2}} \eta(x) dx \int_{-\frac{1}{2}}^{\frac{1}{2}} \eta(x') dx' K_{-1/2}(k_0 x - x', k_0 T), \quad (5)$$

但し

$$K_n(k_0 x - x', k_0 T) = P_n(k_0 x - x', 0) - 2P_n(k_0 x - x', k_0 T) + P_n(k_0 x - x', 2k_0 T), \quad (6)$$

部分積分すれば

$$\begin{aligned} \frac{\pi R}{4\rho} = & -(\eta_0^2 + \eta_{2n}^2) K_1(0) + 2\eta_0 \eta_{2n} K_1(k_0) + 2 \int_{-\frac{1}{2}}^{\frac{1}{2}} \eta(x) dx \int_{-\frac{1}{2}}^{\frac{1}{2}} \eta(x') dx' \left\{ 2n K_1(k_0 x - x') - \eta_0 K_1(k_0 x + x') \right\} \\ & - \int_{-\frac{1}{2}}^{\frac{1}{2}} \eta'(x) dx \int_{-\frac{1}{2}}^{\frac{1}{2}} \eta'(x') dx' K_1(k_0 x - x'), \quad (7) \end{aligned}$$

但し上の \$K_i\$ は \$K_i(K_0, x-x', K_0 T)\$ の意味にとり、又船尾を \$2n\$ 等分して船尾から \$0, 1, 2, \dots, 2n\$ の番号を附け、\$i\$ 着目の半巾を \$\eta_i\$ と表す。

此の式を

$$\left. \begin{aligned} \eta'_i &= n(\eta_{i+1} - \eta_{i-1}) \\ \eta'_0 &= n(-3\eta_0 + 4\eta_1 - \eta_2) \\ \eta'_{2n} &= n(\eta_{2n-2} - 4\eta_{2n-1} + 3\eta_{2n}) \end{aligned} \right\} \dots (8)$$

と考へて、\$\sin\$ の範囲で積分すれば、附録の式になり、結局

$$R = \sum_{i,j=0}^{2n} \eta_i \eta_j M_{ij}, \quad \dots (9) \quad \left\{ \begin{aligned} M_{i,j} &= M_{j,i} \\ &= M_{2n-i, 2n-j} \end{aligned} \right.$$

の形に書ける。

そこで排水量一定の下で、極小な抵抗を有する船型を定める問題を考へるに、\$\lambda\$ を不定乗数とて、

$$\left. \begin{aligned} \frac{\partial}{\partial \eta_i} \left[R + \lambda \left(2 \int_{-\frac{l}{2}}^{\frac{l}{2}} \eta dx - V \right) \right] &= 0 \\ 2 \int_{-\frac{l}{2}}^{\frac{l}{2}} \eta dx &= V \end{aligned} \right\} \dots (10)$$

$$\text{即ち} \quad 2 \int_{-\frac{l}{2}}^{\frac{l}{2}} \eta dx = 2 \sum_{i=0}^{2n} m_i \eta_i = V, \quad \dots (11)$$

の形に積分すれば、(10)式は(9)を考へて、

$$\left. \begin{aligned} \sum_{j=0}^{2n} \eta_j M_{ij} + \lambda m_i &= 0, \quad i=0, \dots, 2n \\ 2 \sum_{j=0}^{2n} m_j \eta_j &= V \end{aligned} \right\} \dots (12)$$

此の聯立方程式の解 \$\eta_i\$ は極小抵抗を与える。

又半巾が \$\Delta \eta_i\$ だけ変化した場合の抵抗変化は(9)から

$$\Delta R \doteq \frac{\partial R}{\partial \eta_i} \Delta \eta_i = R \sum_{j=0}^{2n} \eta_j M_{ij} (\Delta \eta_i) \quad \dots (13)$$

$$\frac{\partial R}{\partial \eta_i} = 2 \sum_{j=0}^{2n} \eta_j M_{ij}, \quad \dots (14)$$

此の(14)式と(12)式を同様に考へて得られた。

即ち、(4)式において点 \$(x, z)\$ に於いて、

$$\Delta \eta \Delta x \Delta z = \frac{1}{2} \Delta V, \quad \dots (15)$$

の極限僅かな変形があったと考えると排抗変化は垂直航路の船の場合には

$$\frac{\Delta R}{\Delta V} = -\frac{4\rho}{\pi} k_0^3 \int_{-\frac{1}{2}}^{\frac{1}{2}} \eta(x') dx' [P_{-3}(k_0 x - x', -k_0 z) - P_{-3}(k_0 x - x', k_0 T - z)], \quad (16)$$

又此れ方向に一般に変形するとすれば

$$\frac{\Delta R}{\Delta \eta \Delta x} = \frac{\delta P}{\pi} k_0^2 \int_{-\frac{1}{2}}^{\frac{1}{2}} \eta(x') K_{-1}(k_0 x - x', k_0 T) dx', \quad (17)$$

(16), (17) を影響線と呼ぶ。中にすると此の(17)が、(14)中と略して同じ内容を持つ。この中は誘導の過程から明らかである。又 (16) と (17) は一般には略して似たな曲線となる様に思われる。

附録 1. M_{ij} の計算

$$\begin{aligned} \frac{9\pi}{P} R &= 36 k_0^2 \int dx \int \eta(x') dx' K_{-1}(k_0 x - x') \\ &= 4\eta_0 E_0 + 2\eta_1 E_1 + 4\eta_2 E_2 + 2\eta_3 E_3 + \dots + 2\eta_{2n-1} E_{2n-1} + 4\eta_{2n} E_{2n} \\ &\quad - (\eta_0 - 2\eta_1 + \eta_2) L_0 + (\eta_{2n} - 2\eta_{2n-1} + \eta_{2n-2}) L_{2n}, \quad (A.1) \end{aligned}$$

$$\text{但し } E_i = L_i - L_{i+1}, \quad E_i = L_{i-1} - L_{i+1}, \quad (A.2)$$

$$\begin{aligned} L_j &= 4\eta_0 \Delta_j + 2\eta_1 \delta_{1j} + 4\eta_2 \delta_{2j} + \dots + 2\eta_{2n-1} \delta_{2n-1j} + 4\eta_{2n} \delta_{2n-1j} \\ &\quad + (\eta_0 - 2\eta_1 + \eta_2) K_1(-j) - (\eta_{2n} - 2\eta_{2n-1} + \eta_{2n-2}) K_1(2n-j), \quad (A.3) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \Delta_{-j} &= -\Delta_{j-1} = K_1(1-j) - K_1(-j) \\ \delta_{-j} &= -\delta_j = K_1(1-j) - K_1(-1-j). \end{aligned} \quad \left. \vphantom{\begin{aligned} \Delta_{-j} \\ \delta_{-j} \end{aligned}} \right\} K_1(j) = K_1\left(\frac{k_0 j}{2n}, k_0 T\right), \quad (A.4)$$

従って K_1 の数表が出来れば、これから Δ, δ を計算して L が求まる。これから更に階差をとって E, E が出て来る。此のマトリックスの成分から M_{ij} である。此の際に対称性には注意して表を作った計算すれば、可成り簡単な計算になる。

附録 2. $K_1(k_0 x, k_0 T)$ の計算

$$K_1(x, t) = P_1(x, 0) - 2P_1(x, t) + P_1(x, 2t)$$

$$P_1(x, t) = \frac{1}{\sqrt{\pi t}} \int_0^{\infty} e^{-\frac{v^2}{4t}} \{ P_1(x+v) + P_1(x-v) \} dv, \dots \quad (B.1)$$

$$\left. \begin{aligned} P_0(x) &= -\frac{\pi}{2} \int_0^x Y_0(x) dx, \quad P_{-2}(x) = \frac{\pi}{2} Y_1(x) \\ P_1(x) &= P_1(x) = x(P_0 + P_2) = \frac{\pi}{2} x \{ Y_1(x) - \int_0^x Y_0(x) dx \}, \end{aligned} \right\} (B.2)$$

$P_1(x)$ の数表から (B.1) 式 によつて 数値積分すれば "よ"。
 x が 充分大きければ "漸近的" に

$$K_1(x, t) \underset{t \gg 1}{\simeq} (1 - e^{-t})^2 P_1(x), \quad \dots \quad (B.3)$$

(B.1) による計算と此の式による近似値が "實際的に一致する" 箇所からは此の近似値でよい筈である。

附合 了。 ~~解題~~ における近似。

K_0 が 充分大きいときは、上述の方法はあまりよい方法ではないと考えられる。

この時は、 K_0 の各種分は 部分積分して

船型を, $\eta_0, \eta_0', \eta_0'', \eta_0''', \dots, \eta_{2n}, \eta_{2n}', \eta_{2n}''$, \dots

等 で 代表させてやる方がよいと思われる。

此の様に考えれば "問題" は 又 別の意味で 可成 簡単化する事が出るよう。

又此の場合は K_2 を 計算する 必要が 出てくる 点の 面倒になる。

以上

Feb. 11, 1960.